

油山川砂防堰堤の完成見学会 ～土砂災害の自分事化の取組とフィジー共和国との国際交流について～

◆ 三 井 良 太* ◆

1. はじめに

静岡市の中心地から約13km北にある油山地区は、歴史ある油山温泉とワサビ田や茶畑に囲まれた緑豊かな集落です。

令和4年の台風第15号では、静岡県中西部を中心に猛烈な豪雨となり、167件もの土砂災害が発生

しました（図－1）。

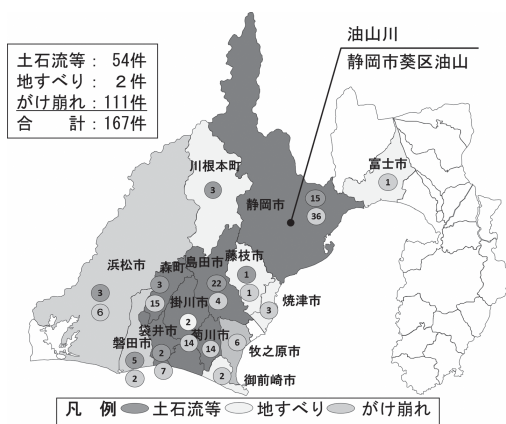
油山地区においても集落を流れる油山川源頭部の大規模な山腹崩壊により、既存の砂防堰堤を乗り越える土石流が発生し、温泉旅館へ土砂が流入するなど、住宅全壊1戸、半壊11戸、床上浸水17戸等の被害が発生しました（写真－1，2）。

幸い人的被害はありませんでしたが、溪流内には大量の不安定土砂が残り、再度災害のおそれがあったことから、油山川と支川の小沢が災害関連緊急砂防事業に採択され、砂防堰堤を緊急的に整備しました。

本稿では、当該事業の実施における創意工夫や完成見学会を通じた地元住民への土砂災害の自分事化に向けた取組、フィジー共和国との国際交流について報告します。

2. 災害関連緊急砂防事業における創意工夫

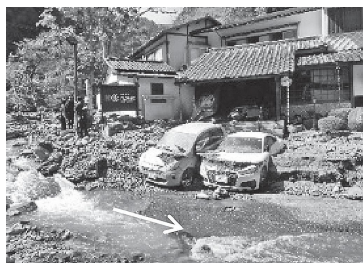
本事業（表－1，写真－3，4）の着手にあた



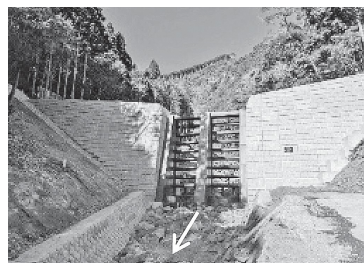
図－1 台風第15号による土砂災害発生状況



写真－1 油山地区の被害状況



写真－2 油山地区の被害状況



写真－3 完成した砂防堰堤（油山川）

* Ryota Mitsui 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課砂防班主査

表－1 災害関連緊急砂防事業の概要

溪流名	油山川	小沢
事業内容	透過型砂防堰堤 1 基 (H=12.0m, L=49.5m)	透過型砂防堰堤 1 基 (H=6.5m, L=37.5m)
施設効果量	約 1 万 m^3	約 3 千 5 百 m^3
事業費	約 1.6 億円	約 1 億円
工事期間	令和 5 年 9 月～令和 7 年 2 月	令和 5 年 9 月～令和 6 年 10 月



写真－4 完成した砂防堰堤（小沢）



写真－5 現場視察の状況



写真－6 視察記念堤銘板

り、調査段階で、砂防堰堤候補地の周辺に未相続の土地や所有者不明土地が存在していることが判明しました。このため、未相続の土地が用地買収の対象とならないよう堰堤を配置したほか、所有者不明土地管理制度を活用し、土地管理人を選任して境界立会いを迅速に進め、速やかな工事着手に努めました。

また、発生土を有効に活用するよう、砂防ソイルセメント工法を採用するとともに、静岡市と土砂の搬出先を調整し、清水港（清水区興津）の埋立材として活用しました。

なお、土砂等の運搬にあたっては、施工現場が集落内の狭隘な道路を通過する必要があることから、地域住民に対して作業日や車両の通行時間等の説明を丁寧に行い、全面的な協力が得られました。また、受注者からは、限られたヤード内でソイルセメントを効率的に攪拌混合するために、現場下流に土砂の仮置き場を設置し、安全を確保しながら土砂を運搬するなど施工方法の創意工夫の提案がありました。

3. 国際交流

当該事業の重要性を広く周知するため、施工中は、国や県の関係機関からの現場視察を積極的に受け入れました。

令和 6 年 10 月には独立行政法人国際協力機構

(JICA) からの依頼により、日本の防災施策を学ぶ目的としてフィジー村落離島開発・災害管理大臣が来日して現場を視察いただきました（写真－5）。

令和 7 年 2 月までに砂防堰堤 2 基が完成し、3 月 8 日（土）に事業に携わった建設会社や建設コンサルタントと連携して「油山川砂防堰堤完成見学会」を開催し、地域の皆様と完成を祝いました。

現場視察の御縁から、フィジー大使館に見学会の開催を事前に報告したところ、クレラ臨時代理大使にも御出席いただけることとなりました。また、堰堤には、フィジー大臣の視察や友好を祈念する堤銘板を設置しました（写真－6）。

見学会では、大使から「砂防堰堤の完成を心からお祝いするとともに、この堰堤が両国の友好の証として、地域の皆様に愛される堰堤であり続けることを願う」と温かい祝辞をいただきました。また、御厚意によりフィジーの国民的な飲み物「カヴァ」がふるまわれ、地元の皆様と心温まる交流ができました（写真－7、8、9）。



写真－7 クレラフィジー共和国大使館臨時代理大使



写真-8 カワの試飲会



写真-9 完成した堰堤の前で集合写真

4. 土砂災害の自分事化・広報

今回の見学会では、完成の記念とともに、いざという時には自ら早めに避難することが重要であることを伝えるための砂防カードを作成・配布しました。

このカードの表面には完成した砂防堰堤の概要を記載し、裏面には土砂災害から命を守るためにハザードマップや土砂災害の危険度を確認する方法、避難所の情報等を記載しています。

本県では、こうした取組を各現場に広げていく予定です（写真-10）。さらに、X（旧 Twitter）を活用して、県民に幅広く発信していきます。

5. おわりに

完成見学会は、あいにくの小雨の中での開催となりましたが、多くの地元の皆様にお越しいただきました。

油山自治会の吉岡秀規会長から、災害発生時の状況の振り返りや堰堤完成に対するねぎらいと感謝の言葉をいただきました（写真-11）。また、現場代理人の小林裕幸氏から、大量の土砂や流水等による難工事であったが、地元住民の笑顔のた



写真-10 砂防カード



完成見学会の X 投稿
（令和7年3月8日）



写真-11 吉岡秀規
油山自治会長



写真-12 左から服部エンジニア(株)柳澤孔亮氏(管理技術者)、仲栄建設(株)小林裕幸土木部次長(監理技術者兼現場代理人)、担当監督員鈴木泰裕主任、前任杉山隆太主査

めに工事を進めるとともに、皆様の力添えにより、無事完成することができたと想いを語っていただきました（写真-12の左から2人目）。

完成見学会を通じて、事業関係者と地元の皆様、地域の安全、安心のために心をひとつにできたことを嬉しく思います。

最後に、本事業にあたっては、地元の皆様をはじめ、建設コンサルタント、建設会社等の関係者に多大な御協力をいただき、あらためて謝意を表します。